

“至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2019 第3号(上級生版)

1. 東海総体など終了しました！

第2号からここまでにまた多くの大会等がありました。東海総体においてはまたもや本校生徒が大暴れ！テニス部が団体優勝、個人も1～3位を独占すれば、陸上部は3年生の奥林さんが昨年の全国総体優勝記録を上回る東海記録で優勝、2年生の阿部さんとともにインターハイに出場を決めました。ハンド部、バスケット部、空手部も夏のインターハイに向けて課題を見つけるとともに、手ごたえをつかんだ大会になったのではないのでしょうか。商業系でも簿記部が今年も県大会優勝、全国へコマを進めれば、水泳部も団体2位、個人種目でも東海総体に進出しました。

夏休みには各クラブともさらに全国大会等があります。ぜひともベストを尽くしてください。ギターマンドリンクラブは7月に全国コンクールが、野球部は11日からいよいよ夏の大会が始まります。それぞれに出場の皆さん、みんなに熱い戦いを見せてください。

2. 「学びの基礎診断」を受験して

今年度から新たに導入した企画の一つが4月に皆さんが受験した「学びの基礎診断」です。昨年本校では初めて「基礎力診断テスト」を受験しました。今回のテストは基礎学力に加えて記述・論述問題を加えることで将来社会を見据えた思考力・判断力・表現力もチェックできるようになりました。すでに結果は返ってきたと思いますが、その意味と分析について説明しておきましょう。

大きく3つのメリットがあります。一つ目は個人の分析表を見ることで自分の強いところ、弱いところを発見することができることです。その結果、振り返って自分で主体的に、計画的に勉強することができるようになります。先生との面談でもより具体的な話ができるでしょう。二つ目は、毎年連続して受験することで自分の力が伸びているのかどうか1年間のプロセスを測ることができることです（今年は年2回受験するので半年ごとの伸びも見ることができます）。その結果、自分の学力や生活習慣がどのように変化しているのかを知ることができます。そこから自分で考えて学習計画を修正することもできるでしょう。最後に、自分の全国レベルでの客観的な力を見ることができるようになることです。2年生10月からは「実力診断テスト」という高いレベルのテストを受験することになるので（今回の3年生もすでに受験している）、就職希望の生徒は社会人として必要な資質・能力を測ることができますし、進学希望の生徒は大学・短大・専門学校等の合格可能性を客観的に判定する資料として用いることができるようになりました。特に、進学希望生徒はこれまで校内のデータしかないため、自分がどのような大学等に合格できる可能性があるのかが判断できず、いきおい「ここは合格できるだろう」と自分で判断できるところや本校に来ている指定校から選んで進学先を決める傾向が強かっただけに、2回の「実力診断テスト」を導入することで高い目標に向かってチャレンジしたり、複数校の併願戦術を考えて受験したりと進学に対するバリエーションが増えたことは意義が大きいと思います。

以上のことをおさえたうえで、今回の本校全体の傾向を分析してみましよう。もちろん、

もっと細かい分析とその対策は各学年や進路が練ってくれると思いますのでここでは私が各学年の成績を概観して見えてきた全体としての傾向を述べたいと思います。まず感心したのが、英数国の3教科の学力を測るわけですが普通科より少ない単位数での授業にもかかわらず入学時の成績からの落ち幅が小さいことです。本校はもともと入学時に成績下位の生徒は極めて少ないわけですが、その人数が2、3年生になってもほとんど変わらないのは皆さんの勤勉さ、誠実さ、真面目さの証明だと思います（通常、どんな高校でも授業についていけなくなったりやる気を失ったりして成績が落ちていく生徒が一定数いるのが普通ですから）。一方で、やはり成績上位の生徒の数は減っていきます。これは普通教科の授業の分が専門科目に置き換わっていることで逆に専門性が高まり、資格取得につながっているわけですから常識的に考えれば仕方ないことかもしれません。しかし、教育が大きく変わろうとする今だからこそ、少ない単位数でも学力を伸ばせる工夫が何かないものか、もう一度考え直してみたいと思います。

実は、分析の結果、皆さんには決定的な弱点があることがわかりました。それは「記述・論述の問題に弱い」ことなのです。これは決して文章としての解答ができないという表現力だけの問題ではありません。「書くことは考えること」私は20年以上、国語の授業・小論文・進路指導等を通じてこれを実践してきました。問題・課題に対して自分で（あるいは仲間と協働して）考え、自分なりに判断し、それを言葉として表現する。すなわち思考力・判断力・表現力を含めた総合的な力が「記述・論述の問題」になるのです。加えて、問題のもとになる文章や資料を「読解する力」は「考える」ための前提となりますから、絶対に必要になります。こうしてみると「記述・論述の問題」を克服する＝思考力・判断力・表現力を向上させることは、国語や英語の授業以外でもできることではないでしょうか。大きなヒントになるのが例えば3年生の授業にある「課題研究」「ビジネスマネジメント」などの探究型の授業。これは外部の方々と話をしたり、ディスカッションしたり、授業内でも多くプレゼンしたり、と「話す」と「書く」のアウトプットの仕方に違いはあっても同じ能力を向上させる要素が満載です。いつもここに掲載する「外部・地域の方々のホンモノ体験」も同様の力を伸ばすことができます。私が校内で交流できるのは（数は少ないですが）3年生ばかりなのですが、昨年1年の交流の中で本校の生徒は3年生の1年間で「すごく生きる力がアップするな～」という感想を持ちました（客観的なデータがないのであくまで私の感覚ですが）。もし、この経験を1、2年生の時から計画的に積んでいくことができたなら…。授業はもとより、特別活動や部活動を通じてもやり方一つでずいぶん結果も変わってくるのではないのでしょうか。

いよいよ夏休みが始まります。今年もなにか一つでもいいので「人のためになることを実践してみてください。ではまた9月2日に元気にお会いしましょう。

(7月9日)